平成29年度　北九州市立　富野中　学校　学校評価報告書（自己評価）　〈様式　1〉

学校教育目標	「勉学・健康・自律・礼儀・奉仕」の精神のもとに「知・徳・体」の調和のとれた健全な生徒の育成を目指す

《本年度の重点目標》

《重点目標1》	「知・徳・体」の調和のとれた健全な生徒の育成を推進する
《重点目標2》	活気に溢れ、生徒一人一人が生き生きと明るく、「安全で安心」な学校づくりを推進する
《重点目標3》	家庭及び地域社会に「開かれた学校」、保護者、地域から愛され、信頼される学校づくりを推進する

◆記入にあたっての留意事項
- ○　取組については，各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること。
- ○　「取組」「評価項目」「評価項目についての重点的取組」を設定する際には，次の６点をいずれかに必ず位置づけること。
  - ①学力向上に関する取組　②体力向上に関する取組　③心の育ちに関する取組
  - ④いじめ問題解決に関すること　⑤特別支援教育推進に関すること　⑥あいさつ日本一に関すること
- ○　小・中学校においては，①学力向上に関する取組，②体力向上に関する取組，③心の育ちに関する取組の部分の記述について，スクールプランと整合性を取ること。
- ○評価の例　A…目標を十分に達成できた　B…目標をほぼ達成できた　C…あと少しで目標が達成できた　D…目標達成までいかなかっ

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度の改善点
学力向上に関する取組	【授業改善】 ◇＜生徒質問紙（59）＞「授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。」について、肯定的な回答をした生徒の増加 ◇＜生徒質問紙（63）＞「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。」について、肯定的な回答をした生徒の増加	○一単位時間の授業の中で、必ず「話し合う活動」を取り入れることを全教員で取り組む。 ○一単位時間の授業の中で、必ず「めあて」「まとめ」を設定することを全教員で取り組む。また、生徒に、「めあて」「まとめ」をきちんと確認させる時間を設ける。 ○本校独自の授業改善プランを全教員が作成し、学期に1回、それを基にした研修を行い、授業改善に努める。	A	○生徒質問紙の結果、肯定的な回答をした生徒の割合も増加し、目標を達成できた。 ○「話し合う活動」用の３～４名班を各クラスで編成し、どの授業でも「話し合う活動」がスムーズに進むように学校としてエ夫した。 ○「めあて」「まとめ」の整合性を更に高めるため学力向上推進教員による研修を行った。また、教育センターの自主研修に4名の職員が参加し、ミドルリーダーを中心に「授業構想シート」の活用を促した。 ◆「話し合う活動」を積極的に取り入れるため「話し合う活動」の取組週間を設ける。
	【補充学習】 ◇＜生徒質問紙（41）＞「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか。」について、肯定的な回答をした生徒の増加	○毎日、放課後20分間の補充学習の時間「富野タイム」を設け、全教員が各教室に入り、基礎・基本的な問題に取り組み、生徒同士で学び合い学習を行う。 ○試験前１週間は、「放課後質問教室」を全教員で行い、勉強が分からないと訴える生徒のニーズに答える取組を行う。 ○日頃から、全教員が、「生徒の疑問には必ず答える」という意識で生徒と関わることを徹底する。	A	○生徒質問紙の結果、肯定的な回答をした生徒の割合も増加し、目標を達成できた。 ○「富野タイム」において週末に確認テストを行う等達成度の確認を行った。また、「北九州市学力定着サポートシステム」を活用し、基礎・基本の定着を図った。 ○試験前だけではなく、放課後、質問に来る生徒の数が3年生を中心に増加した。 ◆短いサイクルで、富野タイムでの学習の定着度を確認するなどし、生徒が確実にステップアップしていけるような内容を検討する必要がある。
	【家庭学習】 ◇＜生徒質問紙（15）＞「学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。」について、否定的な回答をした生徒の減少	○生徒が1日1ページ自主学習ノート「富野ノート」の取組を毎日行い、家庭学習の習慣化を図る。また、サポートシステムの基本問題を活用した週末課題を積極的に課すことで家庭学習の時間を増やす取組を行う。 ○家庭学習の充実を図るために、学期に1回、保護者会のときに、「家庭学習への協力のお願い」として啓発活動を各担任が行う。 ○家庭で学習時間を確保できない生徒に対しては、補充学習を行うことで授業時間以外の勉強時間を確保する。	B	○生徒質問紙の結果、肯定的な回答をした生徒の割合も増加し、目標を達成できた。 ○今年度からの「富野ノート」で毎日少しずつ学習する習慣がついてきた。 ◆生徒質問紙（32）の「家で宿題をしていますか」の数値が低いので次年度取組を進めていく。 ◆「よい富野ノートの表彰」など、今までクラスや学年で行っていた効果的な取組を全校の取組として行う。
体力向上に関する取組	【授業改善】【一校一取組】 ◇＜生徒質問紙（16）＞「体育の授業は楽しいですか。」について、肯定的な回答をした生徒の増加	○保健体育の授業の準備運動の中で、「北九州市体力向上プログラム」を活用したジャンプアップ運動等を必ず行うようにし、全生徒の基礎体力の向上を図る。 ○体力テストの結果を分析した結果、生徒の持久力の不足から重点取組として、なわとび運動を取り入れる。昨年度の結果より、運動があまり得意だと感じていない女子も楽しんで取り組めるように「なわとび級認定」や「なわとびランキング」を行う。また、トランポリンを使った取組を活用して、三重跳びや四重跳びを行ったり、跳び箱で難易度の高い技に挑戦したり、楽しみながら基礎体力と運動に対する意欲の向上を目指す。 ○3学期より、「ヘリソンモデル」による指導計画に基づいた授業の取組を行う。	A	○なわとび運動において、「なわとび級認定」や「なわとびランキング」を行った。また、体育大会に大縄跳びの種目を設定し、日頃の取組の成果を保護者や地域に紹介できた。 ○トランポリンを使った取組を活用して、準備運動やなわとびが苦手な生徒の補強運動を行い、楽しみながら基礎体力を身につけさせた。 ○「ヘリソンモデル」による指導計画に基づいた授業を行うことで、生徒も体育以外でも責任ある行動を取ることができるようになってきた。次年度も継続して取り組んでいく。 ◆生徒質問紙の結果、わずかではあるが目標を下回った。次年度も継続して取組を行っていく。
	【家庭での運動について】 ◇＜生徒質問紙（12）＞「家の人から運動やスポーツを積極的に行うことをすすめられることがある。」について、肯定的な回答をした生徒の増加	○運動部の加入率を上げるため、新入生の保護者への啓発活動を入学式後の学活の場面で1年担任が行う。 ○家庭での運動やスポーツの推進を促すために、学期に1回、保護者会のときに、「家庭への協力とお願い」として啓発活動を各担任が行う。	B	○学校通信で結果を生徒・保護者・地域に紹介することで生徒自身が自己有用感を感じ、また、部活動の達成感を味わうことができた。 ◆生徒質問紙の結果、わずかではあるが目標を下回った。次年度も継続して啓発活動を行っていく。
心の育ちに関する取組	【授業改善】 ◇<児童質問紙（10）>「将来の夢や目標を持っていますか」について，肯定的な回答をした生徒の増加	○道徳の時間に内容項目「希望と勇気，努力と強い意志」に関する教材を、重点的に取り組み、夢を持つことの大切さや、目標を達成する素晴らしさを教えていく。 ○総合的な学習の時間に１年生「職業調べ」、２年生「高校調べ」、３年生「進路学習」を系統立てて行い、３年間見通しを持って全教員で夢や目標を持つことの大切さを指導していく。	B	○道徳の時間に生徒に意識させて、「夢や目標」の話をしていくことで、将来の夢や今の自分の目標を意識して行動することができた。 ○総合的な学習の時間において各学年が系統立てて取組を行えた。 ◆生徒質問紙の結果、目標を下回った。次年度も道徳の授業を中心に、日頃から取組を行っていく。
	【授業改善】 ◇＜生徒質問紙（6）＞「自分には、よいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした生徒の増加	○「北九州子どもつながりプログラム」を活用し、対人スキルアップ学習やアサーショントレーニングを学期に2時間、各担任が系統的に行う。１年生に関しては、中１ギャップ解消のために、１学期にスクールカウンセラーと担任によるふれあい合宿での対人スキルアップ学習を取り入れることとする。 ○道徳の時間に内容項目「主として自分自身に関すること」に関する教材を、学期に2回重点的に取り組む。また、生徒自ら振り返って成長を実感したり、これからの目標や課題を見つけたりできるよう工夫し、全教員が生徒とともに寄り添う姿勢を持つようにする。 ○自尊感情や自己有用感を高めるために、行事や学級活動を通して、生徒相互がお互い認め合い、生徒の主体的な活動の場を増やす。	A	○生徒質問紙の結果、肯定的な回答をした生徒の割合も増加し、目標を達成できた。 ○全学年で、スクールカウンセラーと連携し、ストレスマネジメントやアンガ―マネジメントなどの授業を行った。生徒の感想からもとてもよい効果を発揮したと感じられた。
健康・安全・安心の取組	◇いじめの未然防止、潜在化するいじめの早期発見・早期対応に努め、いじめゼロを目指す。 ◇生徒個々の教育支援を要する生徒の教育的ニーズに応えるため、実態を的確に把握し、校内支援体制の整備、関係機関や家庭と連携する。	○生徒アンケートを学期に一度実施し、実態の把握に努める。 ○「登校する生徒を笑顔で迎え、下校する生徒を笑顔で送る」ことを実践する。 ○いじめ等の早期発見、早期対応のために、定例の教育相談に加え、気になる生徒への随時相談を実施する。 ○スクールカウンセラーと担任及び学年職員との連携を図り、組織的に対応する。 ○必要に応じてスクールソーシャルワーカーとの連携を図りながら、効果的な対応を検討し、生徒・保護者の支援を行う。 ○生徒指導委員会、特別支援教育委員会で特別な支援を要する生徒についての情報交換を行い、必要に応じて職員会議等で共通理解を図り、適切な対応、支援ができるようにする。	B	○生徒アンケートは計画通りに実施できた。アンケートで得た実態を教育相談に生かすことができた。 ○毎朝のあいさつ運動により、生徒を笑顔で迎え入れることは実践できた。登校してくる生徒の表情や様子を把握することもでき、気になる生徒への随時相談へつなげることができた。 ◆学級、学年の諸行事により、「笑顔で送り出す下校指導」を職員全員で実践することは難しい面があった。実践可能な方法を検討していく。 ○スクールカウンセラーの来校日には、スクールカウンセラーと学級担任、学年職員が情報交換や対応方法について連携協議し、効果的な生徒対応へつなぐことができた。 ○各教科担任が共通理解したことを踏まえた授業の工夫や支援を実践していくことで、生徒は徐々に落ち着いた生活ができるようになってきた。
開かれた学校づくりの取組	◇「あいさつ日本一」を目指し、既存のあいさつ運動を継続することに加え、小中連携した取組を実施する。 ◇家庭・地域・関係機関との積極的な情報交換により、綿密な連携を図る。	○部活動生徒が中心となって、毎朝あいさつ運動を行う。 ○毎月10日、20日、30日を「笑顔かがやくあいさつデー」とし、校区2小学校の児童、各校のPTAの方々とともに児童生徒の登校時間にあいさつ運動を行う。 ○学校開放週間や学校行事における学校開放及び学校だより・学校ホームページ等による情報発信を積極的に行う。 ○地域行事や体験学習等により地域との交流を深める。 ○生徒会活動や部活動における地域での自主的奉仕活動の取組を行う。	B	○校舎内外を問わず、あいさつをする生徒は多くなってきた。来校者へのあいさつも積極的にできてきた。 ◆自主的に元気なあいさつができるように生徒会活動等との連携等を検討していく。 ○「笑顔かがやくあいさつデー」は確実に実践することができた。PTA、生徒会、部活動生徒が正門で元気よくあいさつをすることができた。 ◆「笑顔かがやくあいさつデー」は小中一斉に実施しているが相互の取組の様子が分かりづらい。実感できる小中合同の取組を検討する。 ○ICTサポーターの協力を得て、定期的にHPの更新ができた。また、毎月の学校通信により、学校の様子等を伝えることができた。 ○部活動生徒の日頃の取組の成果を発表する場として校区の行事に参加させた。地域の方々に生徒が頑張る姿を見てもらう絶好の機会となった。 ○地域の保育所等での体験学習を行った。生徒にとって貴重な学びの場となるだけでなく、地域との交流を深める機会となった。